

星野美智子新作展—ボルヘスの詩によせて:Rose Memorized - Buenos Aires—開催のお知らせ

【概要】

- ・ 展覧会名：星野美智子新作展「—ボルヘスの詩によせて:Rose Memorized - Buenos Aires—」
- ・ 会 期：2013年11月11日（月）～11月23日（土）
- ・ 時 間：11:00a.m.～7:00p.m.(最終日5:00p.m.まで) 日曜休廊
- ・ 場 所：ギャラリー志門
〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-7 新保ビル3F
TEL:03-3541-2511 FAX:03-3541-2512
E-mail:g-simon@bu.ij4u.or.jp URL:http://g-simon.com/
- ・ 技 法：ウォータレスリトグラフ、デジタル版画
- ・ 点 数：約20点（特大、大、中、小品等）

【テキスト】

星野美智子は、1976年より一貫してボルヘス文学と共有する暗喩をテーマに制作を続けてきました。ボルヘスの幻想的な短編作品からインスピレーションを汲み出し、絵画でしか表現できない世界を造り出していきます。星野の作品は、とても大切な何かを、遠い記憶から呼び覚ましてくれます。

【技法】

カラーが主流のリトグラフに対して、あえてモノクロームのリトによって制作しています。星野の黒の瞑想性は、作品の奥に潜むものへと観る者の思索を誘います。

【ブエノスアイレス】

星野は、これまで「記憶」「時間」「迷宮」「薔薇」「砂の本」「円環」「鏡」など象徴的な題材をモチーフとしてきましたが、今回は「ブエノスアイレス」という現実の街をイメージ化する新しい試みに挑戦されます。ブエノスアイレスはボルヘスが生まれ育った街です。父親の目の治療のために家族で西欧に転居しますが、帰国後、すっかり様変わりしてしまった街に、ボルヘスは幼いころの懐かしい想いを巡らせて詩に詠い上げます。ボルヘスの原点ともいえるブエノスアイレス。星野はそこを何度も訪れています。

【左の作品「レコレータ」】

「レコレータ」とはブエノスアイレスの街中にある有名な墓地でアルゼンチンの重い歴史そのもの、ボルヘスの両親も眠っています。その他、「街角—黄昏」「Mirrors in the Mirror」「記憶する薔薇—砂の本」などの最新作が展示されます。



「ブエノスアイレスの街角—レコレータ」2013 ed20

【作家コメント】

「記憶する薔薇」シリーズが長く続いたが、そろそろ、その掉尾を飾るテーマとしてボルヘスが詠う「ブエノスアイレス」を取り上げる時が来たと思う。私が知って来たブエノスアイレスは、ボルヘスを始めとした知識階級の作家達、実は1-2%といわれる知的で富裕な階層の人々との暖かい交流に限られている。西欧からの移民によって造られた国のなかの様々な相克・不信についても聞かされたが、その人々の望郷による西欧バロック的建築にかこまれた旧市街は魅力的である。私が描くのはほんの上滑りのイメージで、ボルヘスの詩に象徴化されたこの街角の黄昏と、1990年以来5-6回訪問し滞在したときに心に残った印象に限られている。2013年初秋 星野美智子

＜ボルヘスの詩より抜粋＞

わたしがヨーロッパで暮らした年月は幻影に過ぎず、わたしはつねにブエノスアイレスに生きていたのだし、これからもそこに生き続けることであろう。

この街角、思い出のように懐かしい街角。ぼくの心に常にあったのはお前、厳しいバラ色の街よ。ぼくにとって親しいのはブエノスアイレスの灯だけ。その灯を頼りに、ぼくは自分の生と死を詩に託する。

以上、ギャラリー志門の2013年11月の展覧会「星野美智子新作展」を貴紙におきましてご掲載いただきたく、展覧会資料を送らせていただきました。画像は他にも用意してあります。必要な場合はギャラリー志門／深井まで。よろしくお願ひします。TEL03-3541-2511 E-mail:g-simon@bu.ij4u.or.jp